キャラクター名
アザレア

プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	**Lv.1:**		**レベル**	4
サポートクラス	ウォーリア	**Lv.1:**	ウォーリア	**性別**	女
称号クラス				**年齢**	
種族	ネヴァーフ			**境遇**	略奪
出自（効果）	傭兵			**目標**	戦い好き

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	18	9	8	9	9	6
ボーナス	5	6	3	2	3	3	2
クラス修正	2	2	2	0	0	0	0
他修正							
能力値	7	8	5	2	3	3	2

HP	62
MP	41
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ヘビーハルバード	至近	-3	16	0	0	0	-2	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	レザーアーマー					5			-1
補助	ガントレット					3			-1
装身具	手入れ道具								
能力値			8	0	5	0	3	8	12
スキル									
その他									
総計(右)			5	16	5	9	3	6	10 m
総計(左)									
総計(両)									
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	8			8	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
にく×3	
MPポーション×3	

現在重量： 11		
最大重量： 15	所持金： 196	預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
テクニックマスター	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 器用基本値+3								
バッシュ	2	4	メジャー	武器	単体	命中	5	
効果： 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
バーサーク	5	3	マイナー	-	自身	自動成功	5	
効果： ダメージに+SL×3、リアクションに-1D								
スラッシュブロウ	3	3	DR直前	-	自身	自動成功	3	
効果： ダメージにSL×2D、シーン1回								
アームズマスタリー：斧	1	-	パッシブ	-	自身	-	1	
効果： 斧の命中判定に+1D								
ブランディッシュ	1	3	メジャー	至近	効果参照	命中	3	
効果： SL×2体の敵に攻撃を行う								
ボルテクスアタック	1	-	効果参照	-	自身	自動成功	1	
効果： 武器攻撃と同時に使用。ダメージに+CL×10、攻撃単体化								
スマッシュ	1	5	マイナー	-	自身	自動成功	1	
効果： 白兵攻撃のダメージに+【筋力】								
デストロイヤー	1	-	パッシブ	-	自身	-	1	
効果： オブジェクト破壊に+2D								
アスレチック	1	-	パッシブ	-	自身	-	1	
効果： 登攀や跳躍などの【筋力】判定に+1D								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

色々と盲目気味なネヴァーフの少女。
両親は共に傭兵であり、既に戦死している。しかし、彼女はそれを分かっておらず、曰く「ある日から帰ってこなくなっちゃったんですよー」だそうだ。「どうしてでしょう？」
父親は戦う事を生き甲斐としていた生粋の傭兵であり、故に幼少のアザレアに対しても戦闘訓練を課し続けていた。彼女にとっては父親というより教官といった存在であるのかもしれない。「戦いに私情を持ち込むな」「殺せる時は殺せ」「殺しに理由を考えるな」という一種の洗脳的な教えを忠実に実行し、それを疑問に思っていない。彼女にとって、命とは言葉だけで何の意味も持たないものである。
一方で、母親もまた傭兵でありながら命の大切さ、平和の大切さを教え込んでいた。しかし、アザレアにとっては父親と共に暮らした時間の方が圧倒的に長く、その意味を理解することができなかった。それでも大切な母親の教えというだけで、分からずともそれを大切にしようとしている。
この相反する教えの中で、彼女は完全に破綻してしまった。平和を謳いながら、目の前に立ちはだかる者＝彼女が障害だと認識したものは誰であろうと衝動を抑えようともせずに破壊しようとしてしまう。
身の丈を超えた大きさの戦斧を振り回す、文字通りの歩く凶器である。自分でも気付いていないのだろうが、彼女は戦いが好きで好きでたまらないのだ。

「戦いは駄目です！戦っちゃ駄目です！きっと平和に分かり合える日がいつか・・・いつか来たら良いのに、ああ、もう、どうして貴方は私の邪魔をするんですか！駄目だけど、もう、良いよ。死んじゃえ。　――今日も分かってくれなかった。いつになったら『仲間』に会えるんだろう」